

マルクス主義經濟學(七)

第八章 商人資本の發達

商品と貨幣とは、商人が其財産を築き上げた材料であつた。そして是等の材料は、往古の氏族制度の諸形態が、凋落して、土地及び其他の生産機關に於ける、私有財産が確實に之に代はつた所では、商人は永久的に之を利用することが出来た。

貴族政治の發達した古代國民は、必ずしも皆な同様に、交易者に對して有利な機會を供した譯ではない。埃及や印度に於けるが如く、分業が硬化して世襲的族籍となつた所では、其社會事情は、自由生産者制度の廣く行はれてゐた希臘や羅馬に於けるが如く、廣潤なる舞臺を商人に與へなかつた。

けれども生産の形式が、或は家長的であらうとも、種族的であらうとも、乃至は世襲的族籍又は奴隸制度の下に行はれて居らうとも、苟も貨物の剩餘があつて、商品として市場に持出される限りは、生産形式の如何に拘らず、商人は自ら氣儘に振舞ひ、自ら市場の主人となるの道を發見したのである。

然しながら、彼等の活動が全く流通界に限られてゐた間は、彼等は自ら生産の主人となることは出来なかつた。成る程、彼等は、生産の上に強大な影響を及ぼすことは出来たに相異なる。けれど

も此影響たるや、單に破壊的影響たることを得たが、決して建設的影響とはなり得なかつた。商人資本は、其原始的の起原から、十六世紀となつて獨立の存在を有するに至つた末期に至るまで長年月の存在を通じて、人民の生産的活動の上には、主として分解的影響を及ぼしたものである。

其初には商人資本は、自己の支配に属しない生産者と生産領域との間に立つて、單に仲介者の役目を演じたに過ぎなかつた。古代にあつて、大なる商業都市を發達し、若くは商業國民を發達した場合にも、其商業は、單に是等の都市又は國民を圍繞する野蠻種族の生産者の間に立つて、其交換を促進するに過ぎなかつた。

然るに商業が發達して其領域と利得とが重大となつて來るにつれて、其掠奪を受ける生産者は、漸やく商業の腐蝕作用を感じて來る。抑々商人は、唯だ一つの目的を持つ。即ち賣買によつて利潤を作るといふ、唯だ一つの目的を持つ。安く買つて高く賣ることは、商人の富の秘密である。従つて彼等は等量の價値を交換してゐては駄目であるし、又た等量の價値と交換することを欲しない。即ち彼は氣儘勝手な價格で買ひ、氣儘勝手な價格で賣る。賣ふ方の生産者も、賣る方の生産者も、彼等の生産物に費やした労働時間をよし知つて居るにしても、是等の生産物が商品となる場合には此労働時間は、是等の品物の價格のうちで價值として表はれない。商人は商品の労働價値を、全然考慮に加へない。彼は單に其支拂ふところの價格と、自分が其れを賣るとききの價格とを比較する。そして是等の價格は、商人資本が資本の高潮的形態である間は、商人階級によつて支配せられて居るものである。